

平成 28 年 5 月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 28 年 5 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 28 年 5 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 2,788 人でした。これは、昨年 5 月の救急搬送人員数 2,904 人と比べると 116 人少なくなっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
 - 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数は、沖縄県が最も多く、次いで熊本県、佐賀県の順でした。
- 5月中旬以降、真夏日（最高気温 30 度以上）が観測される地域が増えるようになり、マラソン大会や運動会等の屋外イベントで少年の熱中症による救急搬送事案が見られました。
- 今後もさらに暑さが厳しくなることが見込まれていることから、こまめに水分補給を行うなど熱中症への更なる警戒が必要です。なお、気象庁では、向こう 1 ヶ月（6 月 4 日～7 月 3 日）の天候の見通しとして、北・西日本と沖縄・奄美では、気温が高くなると予報しています。

消防庁では、ツイッターを通じた注意喚起や、以下の HP において熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」等を公表しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2804/pdf/280426.pdf>

訪日外国人のための救急車利用ガイド（P6 に熱中症予防対策）

http://www.fdma.go.jp/html/new/kyuukyusya_riyou_guide.pdf

【資料】平成28年5月の熱中症による救急搬送状況



(連絡先)

消防庁救急企画室
担当：森川、勝森、足立
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成28年5月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成28年5月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

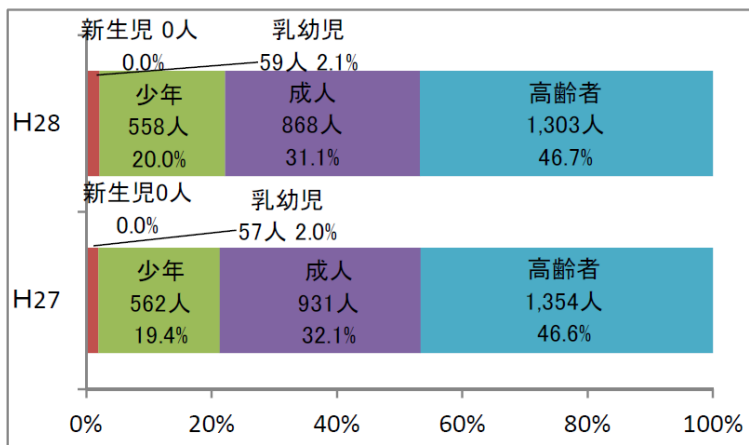
平成28年5月の全国における熱中症による救急搬送人員数は2,788人でした。これは、昨年5月の救急搬送人員数2,904人と比べると116人少なくなっています。5月中旬以降、真夏日（最高気温30度以上）が観測される地域が増えるようになり、マラソン大会や運動会等の屋外イベントで少年の熱中症による救急搬送事案が見られました。（資料1、2、3、5、6、7）

2 内訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（満65歳以上）が1,303人（46.7%）、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）868人（31.1%）、少年（満7歳以上満18歳未満）558人（20.0%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）59人（2.1%）の順となっています。（資料1、5）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



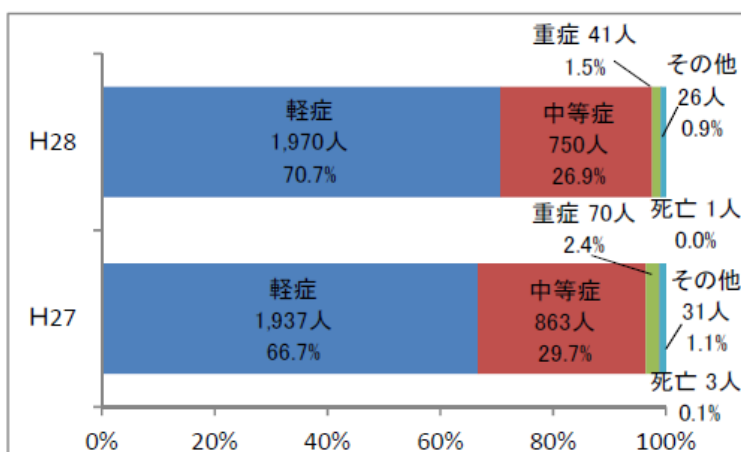
凡例

新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く1,970人（70.7%）、次いで中等症750人（26.9%）、重症41人（1.5%）の順となっています。（資料1、5）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）



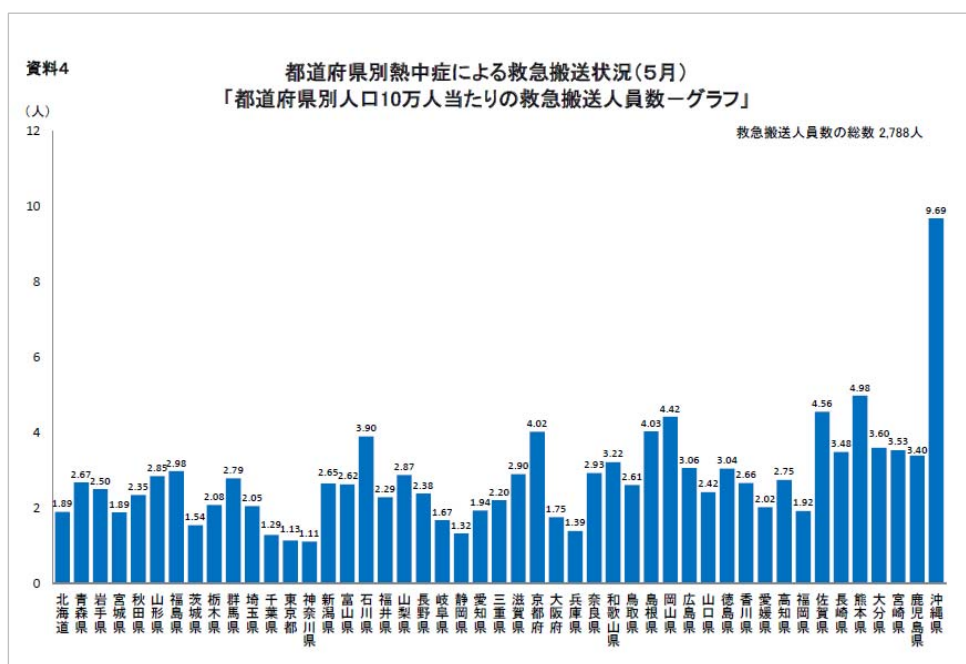
凡例

軽症：入院加療を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重症：3週間以上の入院加療を必要とするもの
 死亡：初診時において死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの、傷病程度が判明しないもの、その他の場所に搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

沖縄県が最も多く 9.69 人であり、次いで熊本県 4.98 人、佐賀県 4.56 人、岡山県 4.42 人、島根県 4.03 人の順となっています。(資料 2、4)



【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

消防庁では調査期間中、ツイッターを通じた注意喚起や、以下の HP にて熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」等を公表しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2804/pdf/280426.pdf>

訪日外国人のための救急車利用ガイド (P6 に熱中症予防対策)

http://www.fdma.go.jp/html/new/kyuukyusya_riyou_guide.pdf

○ 気象庁「5月の天候」より抜粋

2016年(平成28年)5月の天候の特徴は以下のとおりです。

・全国的に高温で、北日本では記録的な高温

南からの暖かい空気が日本付近に流れ込んだため、全国的に気温はかなり高かった。北日本では日照時間がかなり多かった影響もあり、月平均気温は平年差+2.3℃で1946年の統計開始以来5月としては最も高温となった。また、札幌(北海道)、長野(長野県)など25地点で5月の月平均気温の高い方から1位の値を更新した。

・北日本から西日本日本海側にかけて日照時間が多かった

本州付近では北日本を中心に移動性高気圧に覆われることが多かったため、月間日照時間は、北日本ではかなり多く、東日本と西日本日本海側で多くなった。

○ 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較

暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータを比較することにしました。(参考資料)

平成 28 年 5 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況（5月）
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況（5月）
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況（5月）
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況（5月）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況（5月）
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 平成 22 年～28 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覽一表
- 資料 7 平成 28 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ（5月）

資料1

都道府県別熱中症による救急搬送状況(5月)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

都道府県		平成28年5月1日～5月31日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	2	13	25	62	102	0	2	26	74	0	102
2	青森県	0	0	4	15	16	35	0	2	15	18	0	35
3	岩手県	0	0	7	10	15	32	0	0	12	20	0	32
4	宮城県	0	1	7	21	15	44	0	1	18	25	0	44
5	秋田県	0	0	4	8	12	24	0	0	3	21	0	24
6	山形県	0	0	8	5	19	32	0	0	8	24	0	32
7	福島県	0	1	9	12	35	57	0	1	16	40	0	57
8	茨城県	0	3	8	15	19	45	0	1	13	31	0	45
9	栃木県	0	0	8	17	16	41	0	0	7	34	0	41
10	群馬県	0	1	14	19	21	55	0	1	17	37	0	55
11	埼玉県	0	3	30	52	64	149	0	4	32	113	0	149
12	千葉県	0	6	15	31	28	80	0	1	29	50	0	80
13	東京都	0	3	42	63	45	153	0	2	38	113	0	153
14	神奈川県	0	2	30	32	37	101	0	1	38	62	0	101
15	新潟県	0	3	5	24	29	61	0	0	14	43	4	61
16	富山県	0	1	14	5	8	28	0	1	8	19	0	28
17	石川県	0	1	3	22	19	45	0	0	12	33	0	45
18	福井県	0	0	7	6	5	18	0	1	2	15	0	18
19	山梨県	0	0	3	9	12	24	0	0	10	14	0	24
20	長野県	0	0	6	9	35	50	0	1	18	31	0	50
21	岐阜県	0	0	4	9	21	34	0	1	10	23	0	34
22	静岡県	0	2	8	13	26	49	0	0	6	43	0	49
23	愛知県	0	5	27	40	73	145	0	1	32	112	0	145
24	三重県	0	1	5	11	23	40	0	1	9	30	0	40
25	滋賀県	0	0	5	16	20	41	0	0	8	33	0	41
26	京都府	0	1	17	37	50	105	0	2	18	85	0	105
27	大阪府	0	7	33	48	67	155	0	0	25	129	1	155
28	兵庫県	0	1	14	20	42	77	0	2	14	61	0	77
29	奈良県	0	2	8	11	19	40	0	1	11	28	0	40
30	和歌山県	0	0	3	7	21	31	0	0	4	27	0	31
31	鳥取県	0	2	3	1	9	15	0	0	8	7	0	15
32	島根県	0	1	2	10	15	28	1	2	13	11	1	28
33	岡山県	0	2	26	22	35	85	0	0	27	58	0	85
34	広島県	0	0	11	22	54	87	0	2	38	47	0	87
35	山口県	0	0	5	12	17	34	0	0	9	25	0	34
36	徳島県	0	1	6	1	15	23	0	2	7	13	1	23
37	香川県	0	1	6	8	11	26	0	2	10	13	1	26
38	愛媛県	0	0	5	7	16	28	0	0	1	27	0	28
39	高知県	0	0	2	7	11	20	0	0	5	14	1	20
40	福岡県	0	2	36	25	35	98	0	1	25	72	0	98
41	佐賀県	0	1	11	7	19	38	0	0	11	27	0	38
42	長崎県	0	0	18	10	20	48	0	1	13	34	0	48
43	熊本県	0	0	17	24	48	89	0	1	35	53	0	89
44	大分県	0	0	8	11	23	42	0	0	15	27	0	42
45	宮崎県	0	0	10	9	20	39	0	2	13	24	0	39
46	鹿児島県	0	0	4	22	30	56	0	1	19	36	0	56
47	沖縄県	0	3	27	58	51	139	0	0	28	94	17	139
合 計【人】		0	59	558	868	1,303	2,788	1	41	750	1,970	26	2,788
割 合		0.0%	2.1%	20.0%	31.1%	46.7%	100.0%	0.0%	1.5%	26.9%	70.7%	0.9%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

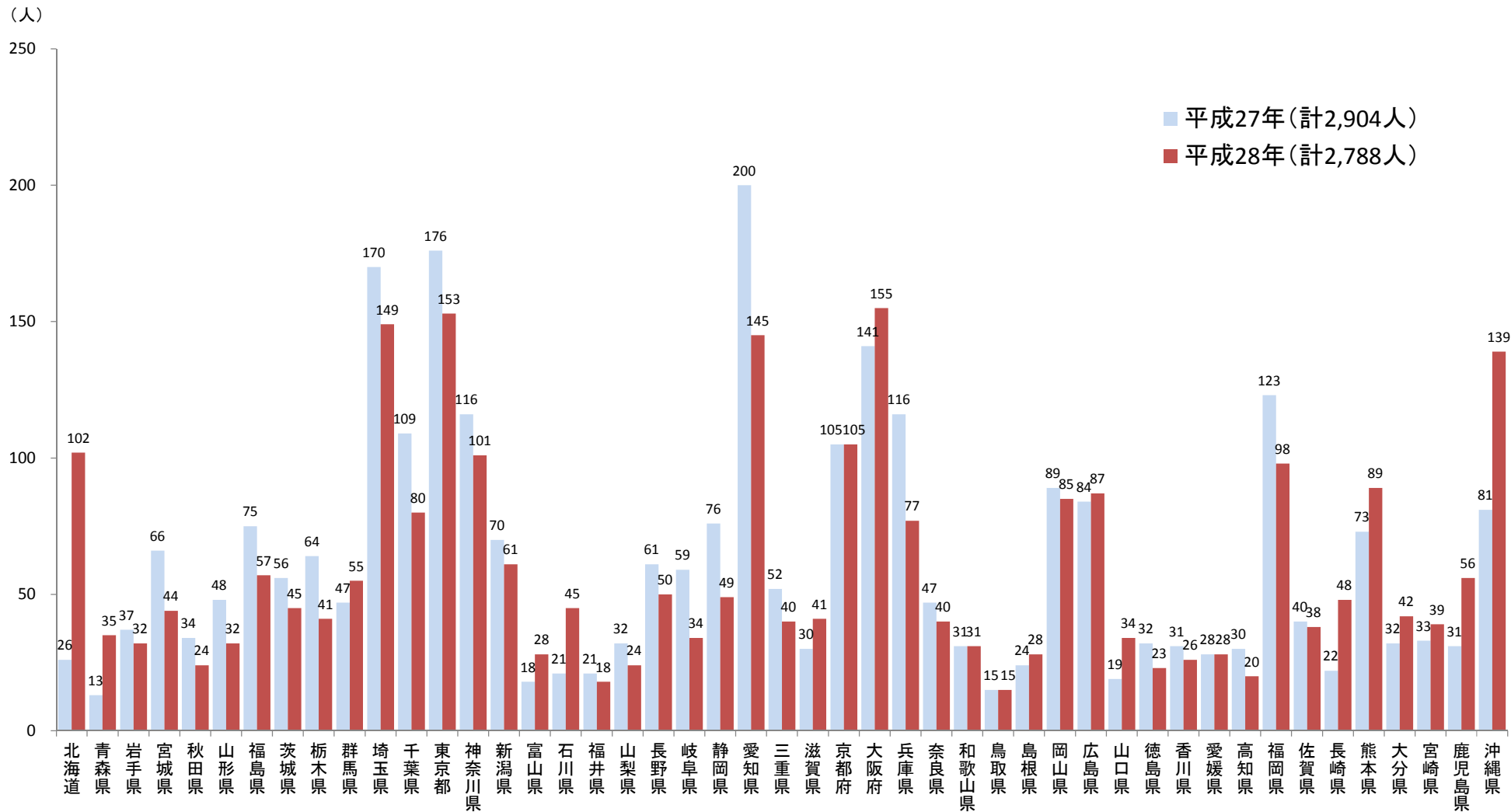
資料2

都道府県別熱中症による救急搬送状況(5月)
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	5月1日～5月31日				
	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)	うち人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)	
1	北海道	26	102	1.89	3.9
2	青森県	13	35	2.67	2.7
3	岩手県	37	32	2.50	0.9
4	宮城県	66	44	1.89	0.7
5	秋田県	34	24	2.35	0.7
6	山形県	48	32	2.85	0.7
7	福島県	75	57	2.98	0.8
8	茨城県	56	45	1.54	0.8
9	栃木県	64	41	2.08	0.6
10	群馬県	47	55	2.79	1.2
11	埼玉県	170	149	2.05	0.9
12	千葉県	109	80	1.29	0.7
13	東京都	176	153	1.13	0.9
14	神奈川県	116	101	1.11	0.9
15	新潟県	70	61	2.65	0.9
16	富山県	18	28	2.62	1.6
17	石川県	21	45	3.90	2.1
18	福井県	21	18	2.29	0.9
19	山梨県	32	24	2.87	0.8
20	長野県	61	50	2.38	0.8
21	岐阜県	59	34	1.67	0.6
22	静岡県	76	49	1.32	0.6
23	愛知県	200	145	1.94	0.7
24	三重県	52	40	2.20	0.8
25	滋賀県	30	41	2.90	1.4
26	京都府	105	105	4.02	1.0
27	大阪府	141	155	1.75	1.1
28	兵庫県	116	77	1.39	0.7
29	奈良県	47	40	2.93	0.9
30	和歌山県	31	31	3.22	1.0
31	鳥取県	15	15	2.61	1.0
32	島根県	24	28	4.03	1.2
33	岡山県	89	85	4.42	1.0
34	広島県	84	87	3.06	1.0
35	山口県	19	34	2.42	1.8
36	徳島県	32	23	3.04	0.7
37	香川県	31	26	2.66	0.8
38	愛媛県	28	28	2.02	1.0
39	高知県	30	20	2.75	0.7
40	福岡県	123	98	1.92	0.8
41	佐賀県	40	38	4.56	1.0
42	長崎県	22	48	3.48	2.2
43	熊本県	73	89	4.98	1.2
44	大分県	32	42	3.60	1.3
45	宮崎県	33	39	3.53	1.2
46	鹿児島県	31	56	3.40	1.8
47	沖縄県	81	139	9.69	1.7
計		2,904	2,788		

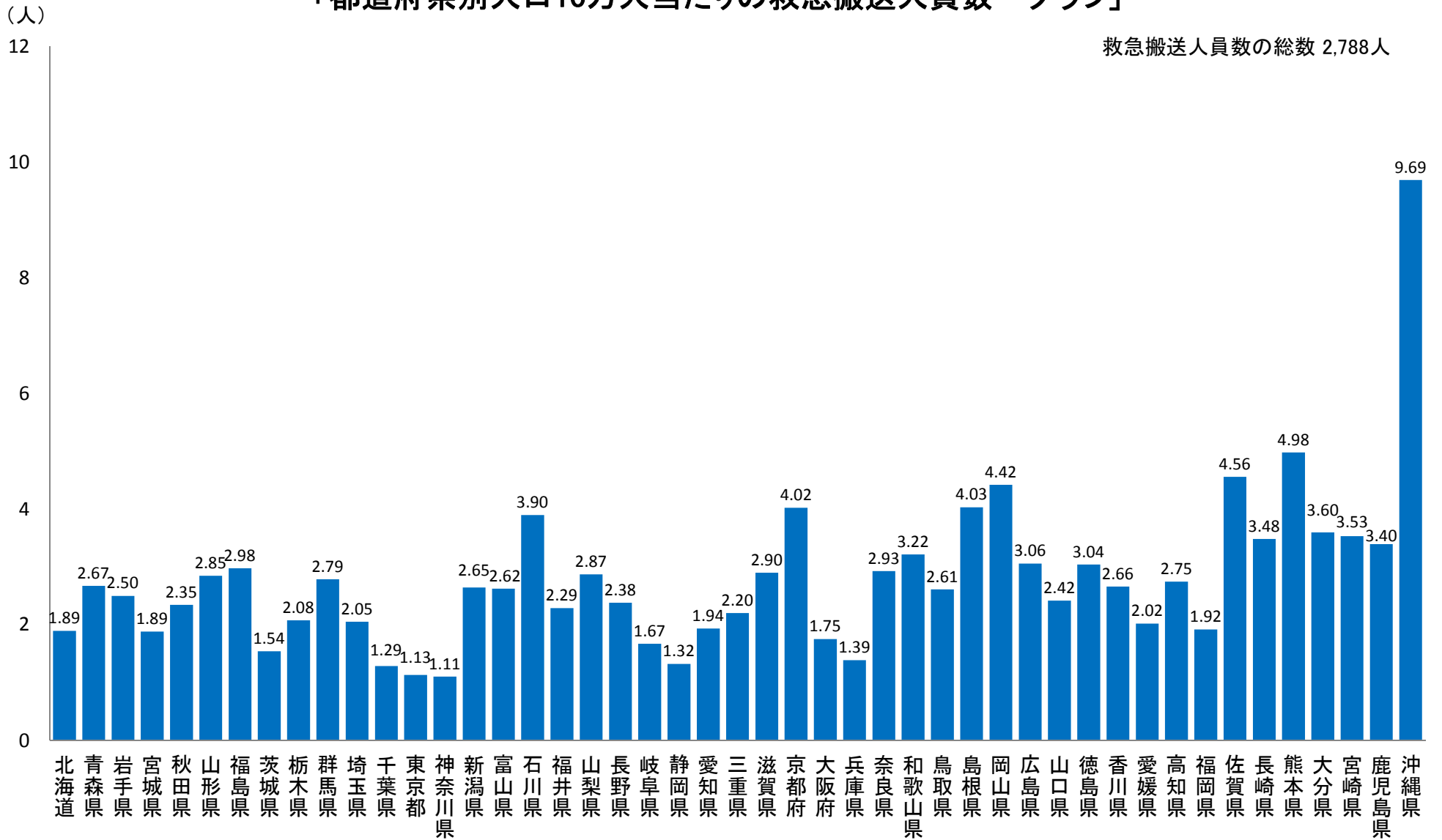
資料3

都道府県別熱中症による救急搬送状況(5月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(5月)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」



資料5

全国の熱中症による救急搬送状況(5月)

「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬 送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
5月1日	日	70	0	2	15	24	29	70	1	0	20	49	0	70
5月2日	月	60	0	0	10	18	32	60	0	1	25	33	1	60
5月3日	火	42	0	0	16	10	16	42	0	0	9	33	0	42
5月4日	水	69	0	5	15	32	17	69	0	2	16	51	0	69
5月5日	木	75	0	1	19	25	30	75	0	4	26	45	0	75
5月6日	金	11	0	0	1	5	5	11	0	0	3	8	0	11
5月7日	土	86	0	3	22	31	30	86	0	1	15	70	0	86
5月8日	日	73	0	2	11	29	31	73	0	1	15	57	0	73
5月9日	月	21	0	0	1	7	13	21	0	0	8	12	1	21
5月10日	火	8	0	1	0	4	3	8	0	0	2	6	0	8
5月11日	水	17	0	0	1	11	5	17	0	0	5	12	0	17
5月12日	木	72	0	0	10	17	45	72	0	1	19	52	0	72
5月13日	金	128	0	4	33	38	53	128	0	4	34	89	1	128
5月14日	土	117	0	3	37	28	49	117	0	4	25	87	1	117
5月15日	日	125	0	0	22	43	60	125	0	1	27	92	5	125
5月16日	月	30	0	1	4	5	20	30	0	2	10	18	0	30
5月17日	火	30	0	2	4	10	14	30	0	0	8	22	0	30
5月18日	水	75	0	2	8	22	43	75	0	0	26	49	0	75
5月19日	木	79	0	4	14	25	36	79	0	1	16	62	0	79
5月20日	金	85	0	6	15	17	47	85	0	0	29	54	2	85
5月21日	土	172	0	3	50	36	83	172	0	2	42	128	0	172
5月22日	日	253	0	5	49	88	111	253	0	3	64	185	1	253
5月23日	月	232	0	3	34	65	130	232	0	3	68	161	0	232
5月24日	火	142	0	4	22	47	69	142	0	4	39	99	0	142
5月25日	水	62	0	0	9	20	33	62	0	0	22	38	2	62
5月26日	木	172	0	2	44	60	66	172	0	3	51	115	3	172
5月27日	金	77	0	1	21	18	37	77	0	2	23	52	0	77
5月28日	土	84	0	1	21	30	32	84	0	1	20	62	1	84
5月29日	日	139	0	2	23	46	68	139	0	0	28	107	4	139
5月30日	月	54	0	0	6	20	28	54	0	0	17	36	1	54
5月31日	火	128	0	2	21	37	68	128	0	1	38	86	3	128
計		2,788	0	59	558	868	1,303	2,788	1	41	750	1,970	26	2,788
熱中症の救急搬送人員数に対する割合			0.0%	2.1%	20.0%	31.1%	46.7%	100.0%	0.0%	1.5%	26.9%	70.7%	0.9%	100.0%

資料6

平成22年～28年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧表

(単位:人)

		平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	2,788	1	2,904	3	調査データなし									
	6月	/	/	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	/	/	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	/	/	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	/	/	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		2,788	1	55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

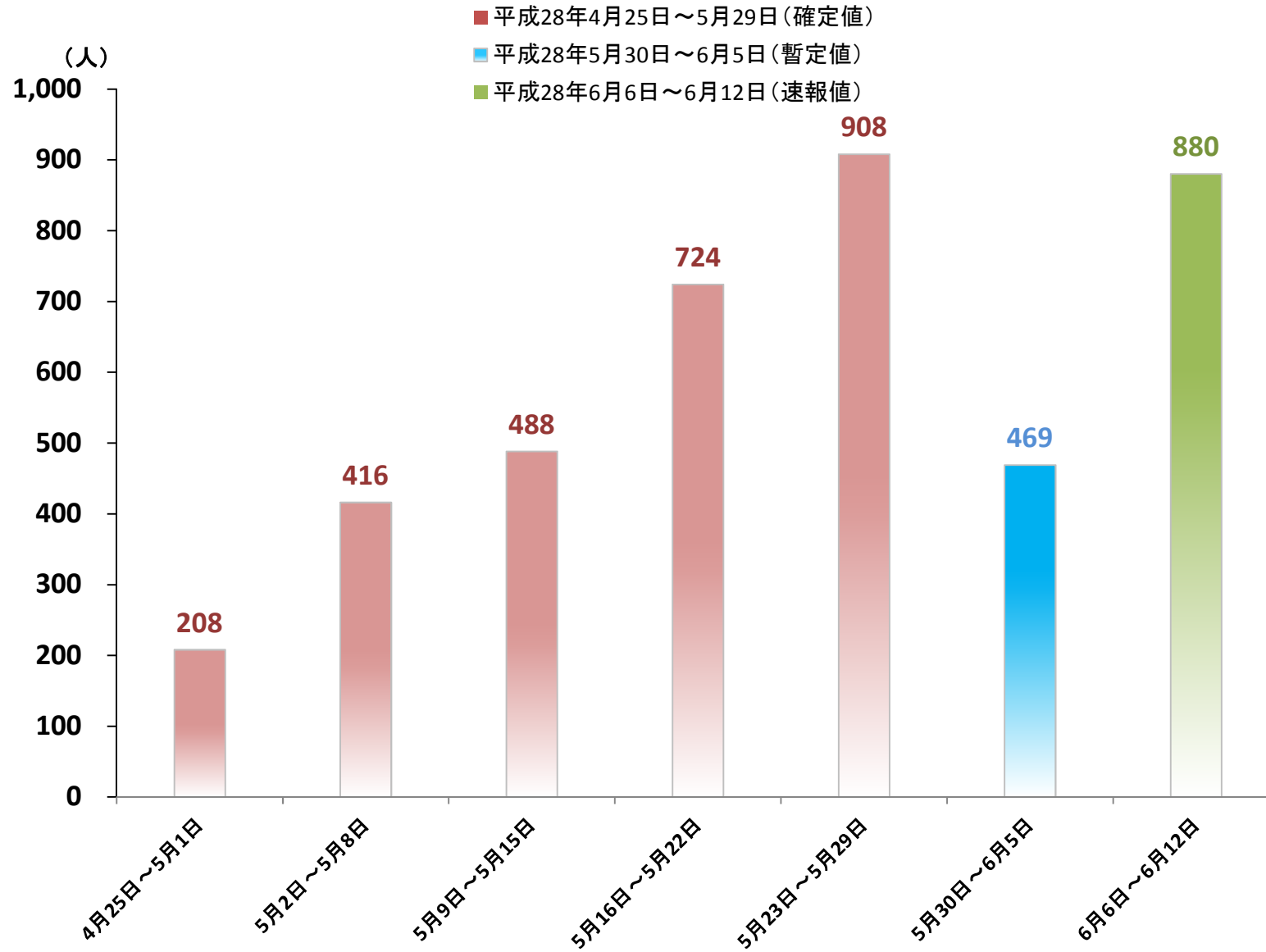
※平成28年は4月25日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平成)
沖縄	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	—	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	—	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	—	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	—	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	—	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	—	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料7

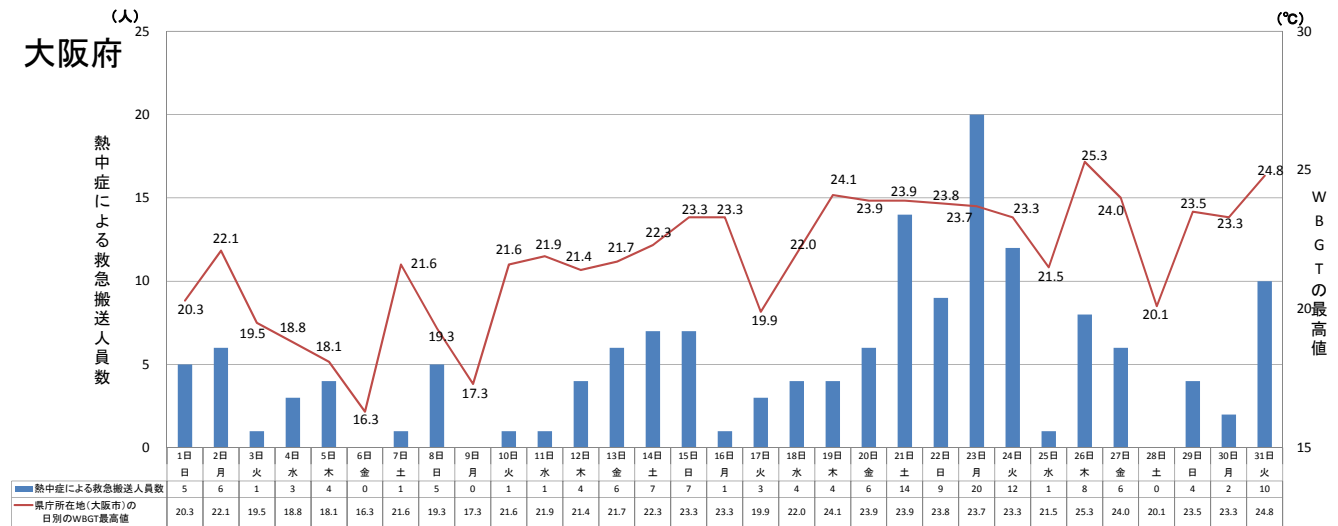
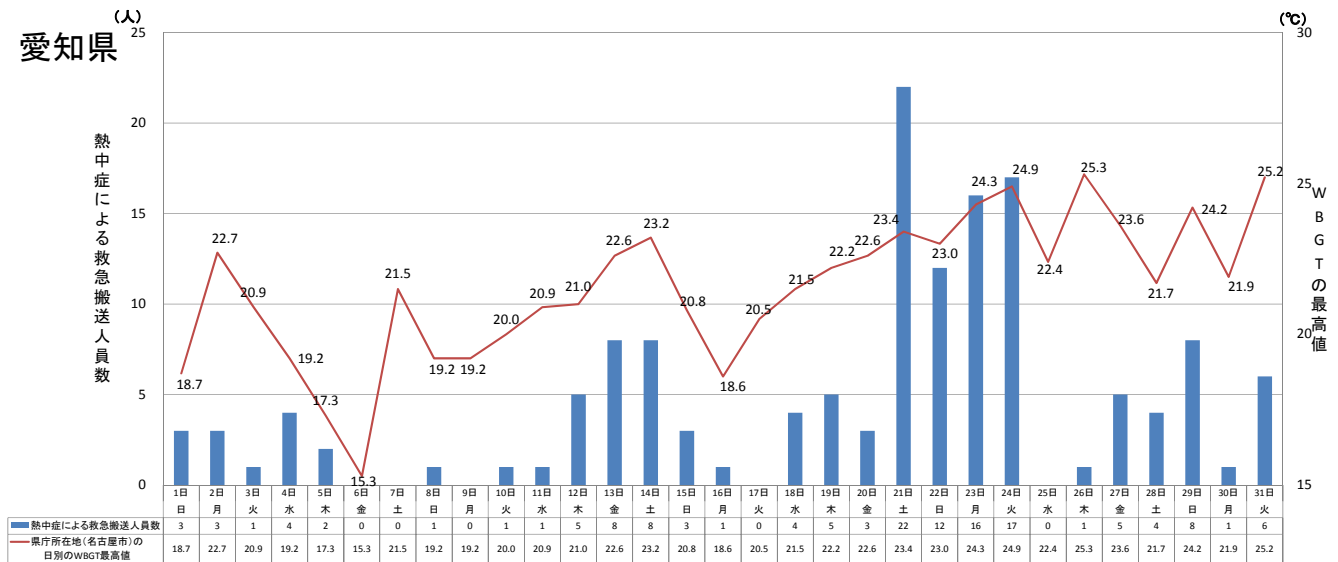
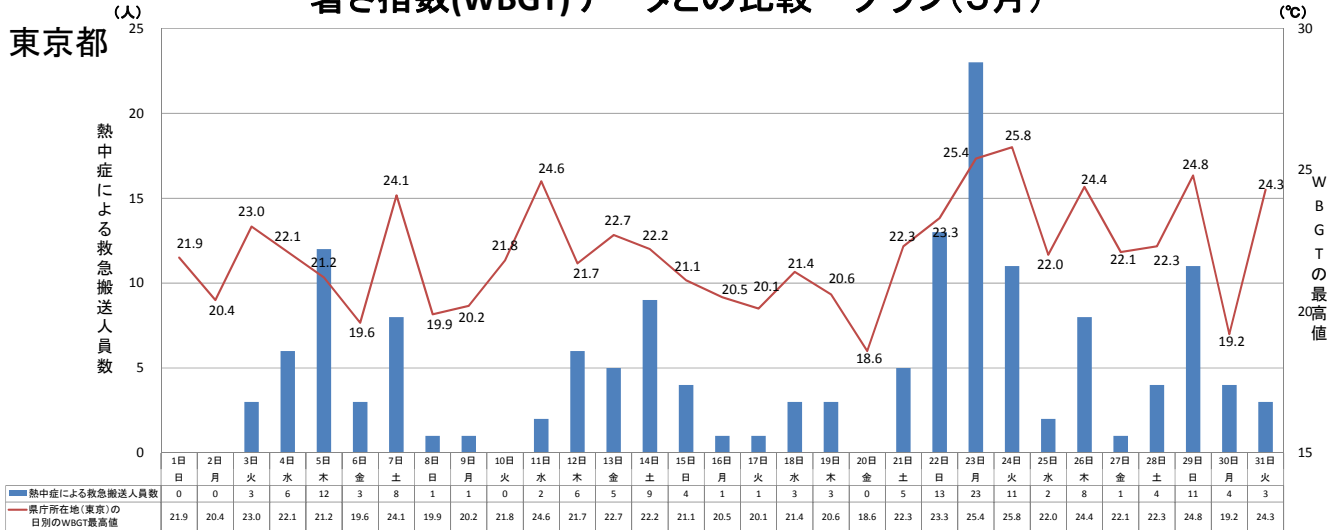
平成28年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ



* 暫定値(青)と速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

参考資料

主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(5月)



【参考】

(1) 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
 (2) 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
 (3) 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

湿度基準(WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険(31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒(28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒(25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意(25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※(28~31℃)及び(25~28℃)については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。日本気象協会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より